

5) 900mlR マークびん・720mlR マークびん

九州地域では地元で消費される本格焼酎の容器の内、一升びんの出荷量は減少傾向であるのに対し五合(900ml)びんは横ばいで推移、その80%以上が居酒屋等の業務用に出荷されています。900mlびんは丸正びんといわれる標準的なびんが一般的に使用されていますが、ワンウェイ扱いで廃棄されるものがほとんどでした。

そこでリユースびん導入を目的としたモデル事業が平成15年から16年度にかけて環境省の旧エコ・コミュニティ事業で採択され、リユースに適した900mlRマークびんが設計され、南九州域内の酒造メーカー10社、醤油メーカー1社がそのリユースびんを採用し現在も流通しています。

このリユースびんの設計にあたっては、製造者、販売会社、びんの回収業者など商品の流れに関わる各会社が参加して委員会を立ち上げ、議論、検討を行い規格統一びんが作成されました。

主たる使用先である鹿児島県大口市の酒造会社では年間出荷本数147万本のうち約58%の85万本が回収され、そのうち鹿児島県に限っては93%程の高い回収率となっています。(公益社団法人環境生活文化機構データ)

九州地域では本格焼酎向けに900ml Rマークびんが展開されたのに対し、東北地域では福島県郡山市において中身は日本酒、容量は日本酒業界では一升(1.8L)びんの次にスタンダードである四合(720ml)びんでリユースを目的とした取組を2011年から始めました。

この取り組みは「郡山モデル」と名付けられ既に一部地域で導入されている720ml Rマークびんを活用する形で、自治体(郡山市)、酒造メーカー、流通(卸・小売・生協)、資源回収組合、消費者団体が一堂に参加し推進協議会が設置されました。初年度は約8万本の720ml Rマークびんが県内より回収され、一本あたり1円が東日本大震災復興支援として推進協議会より福島県に寄付されました。そしてこの取り組みは2012年に県庁が参加することにより、正式に福島県全域へと拡大することになりました。

販売店の店頭ではネックリンガーを商品にかけて消費者への認知度を高めるなど、リユース率が高まるよう消費者への啓発活動が進められています。



▲ネックリンガー

900ml Rマークびん▶



720ml Rマークびん▶

